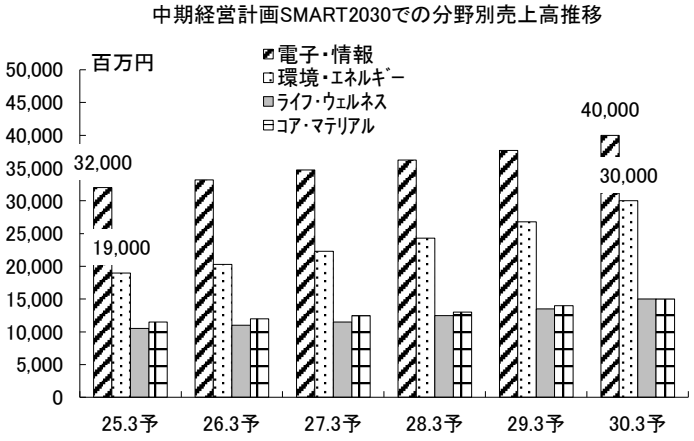
[金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第26号：加入協会…日本証券業協会]

第一工業製薬（コード 4461）

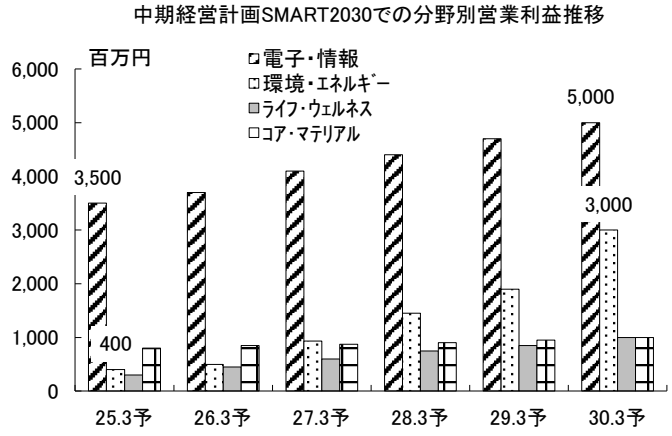
30年3月期に売上高1,000億円、営業利益100億円が目標

第一工業製薬（4461）は、26年3月期から30年3月期までの中期経営計画SMART2030をこのほど策定。従来の6つの材料別セグメントを4つの分野別セグメントに組み替え、最終年度の30年3月期に売上高1,000億円（25年3月期予想比 37%増）、営業利益 100 億円（同92%増）を目指す。

同社では、「界面活性剤」「アメニティ材料」「ウレタン材料」「機能材料」「電子デバイス材料」「ライフサイエンス」の材料別セグメントで事業展開してきたが、26年3月期からは「電子・情報」「環境・エネルギー」「ライフ・ウェルネス」「コア・マテリアル」の分野別セグメントに変更する。



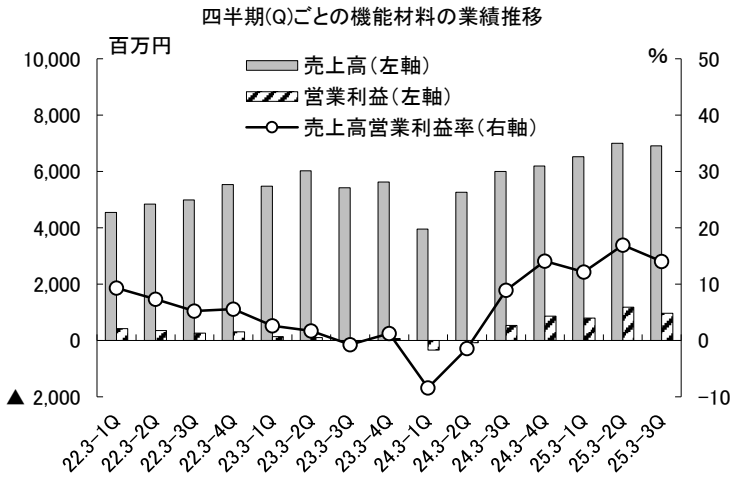
この中で大きな成長が見込まれているのが「環境・エネルギー」で、30年3月期に売上高300億円（同58%増）、営業利益30億円（同650%増）が目標。売上高営業利益率は今期予想の2%から10%へ、営業利益全体に占める比率も8%から30%へと大幅に向上してくる。この成長を支える製品の一つとしてあげられるのが、脱炭素化、サスティナブル社会実現に貢献するリチウムイオン電池関連材料の「負極用水系複合接着剤」だ。携帯機器などに使われるリチウムイオン二次電池の負極材には、主原料である黒鉛に、近年では高容量化のためにシリコン系材料が少量添加されているが、シリコン系材料は充電時に最大 4 倍に膨張することがあり、放電時の収縮に伴う電極構造の破壊による電池の劣化が課題となっている。同社では、充電で膨張した負極が放電後に元に戻るという復元性を重視した負極用水系複合接着剤「エレクセルCRシリーズ」を開発。シリコン系材料の配合量にかかわらず、安定した寿命特性を示し、汎用品では難しい負極材の膨張収縮に適応する性質を持つことから、高い構造復元性を発揮する。電池メーカーなどでの性能評価を経て市場投入される見通しだが、「SMART2030」においては、今期から来期（26年3月期）にかけて供給体制拡大、28年3月期から29年3月期にかけて新立地での生産設備増強を計画している。



また、現在、業績回復に大きく貢献している「機能材料」は、他のセグメントとの組み替えを経て「電子・情報」に衣替えするかたち。30年3月期には売上高400億円（同25%増）、営業利益50億円（同43%増）が目標で、売上高営業利益率は今期予想の11%から13%に向上する見込み。

25年3月期第3四半期の業績概況…25年3月期第3四半期累計期間（24年4～12月）は、機能材料セグメントを中心に好調に推移し、売上高は前年同期に比べ 19%増え、営業利益は約7倍に拡大した。

当期の業績は、売上高 542 億 7,100 万円（前年同期比 19%増）、営業利益 38 億 200 万円（同 618%増）、経常利益 38 億 5,700 万円（同 593%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益 19 億 6,700 万円（同 557%増）となった。



事業セグメント別の売上高は、界面活性剤 145 億 8,000 万円（前年同期比 7%増）、アメニティ材料 68 億 1,100 万円（同 10%増）、ウレタン材料 67 億 1,600 万円（同 3%増）、機能材料 204 億 4,900 万円（同 34%増）、電子デバイス材料 53 億 9,700 万円（同 44%増）、ライフサイエンス 3 億 1,500 万円（同 27%増）に。また、事業セグメント別の営業利益は、界面活性剤 11 億 5,200 万円（同 6%減）、アメニティ材料 6 億 6,800 万円（同 217%増）、ウレタン材料 1 億 9,400 万円の損失（前年同期は 2 億 4,900 万円の損失）、機能材料 29 億 5,600 万円（前年同期比 2,191%増）、電子デバイス材料 2 億 6,000 万円の損失（同 9,300 万円の損失）、ライフサイエンス 5 億 1,900 万円の損失（同 6 億 9,100 万円の損失）になった。

25 年 3 月期の通期業績見通し…25 年 3 月期の通期業績については、売上高 730 億円（前期比 16%増）、営業利益 52 億円（同 150%増）、経常利益 53 億円（同 157%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 25 億円（同 113%増）の見通しで、ハイエンドサーバ向け光硬化樹脂材料を中心に高付加価値品の売上が好調に推移していることから、このほど、24 年 8 月 28 日付け発表値から営業利益、経常利益（ともに従来予想 50 億円）が増額修正。また、1 株当たりの年間配当金についても従来計画の 90 円から 100 円に増額されている。

◆各決算期の第 3 四半期業績推移(連結)（第 3 四半期の CF は非開示）

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	46,697	3,725	182.8	―	―	―	―	―
23.3	49,098	988	▲40.3	―	―	―	―	―
24.3	45,634	529	31.3	―	―	―	―	―
25.3	54,271	3,802	205.5	―	―	―	―	―

◆通期業績推移(連結)（25.3 予は会社側発表値）

決算期	売上高	営業利益	1株純利益	1株配	営業CF	投資CF	財務CF	現金及び現金同等物
22.3	62,672	4,626	244.8	80.0	5,520	▲2,700	▲2,336	12,151
23.3	65,081	1,186	▲41.9	80.0	724	▲2,883	▲1,030	9,051
24.3	63,118	2,077	122.8	65.0	7,091	▲2,008	1,646	15,947
25.3予	73,000	5,200	261.1	100.0	―	―	―	―

（CF＝ｷｬｯｼｭ･ﾌﾛｰ。現金及び現金同等物は各期末値。▲はマイナス。単位は百万円、円）

本レポートは、会社側が発表した決算短信や決算説明資料などに基づき作成しており、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。